

【表紙】

【提出書類】	半期報告書
【根拠条文】	金融商品取引法第24条の5第1項の表の第1号
【提出先】	関東財務局長
【提出日】	2025年11月7日
【中間会計期間】	第93期中(自 2025年4月1日 至 2025年9月30日)
【会社名】	塩水港精糖株式会社
【英訳名】	Ensuiiko Sugar Refining Co., Ltd.
【代表者の役職氏名】	代表取締役社長 木 村 成 克
【本店の所在の場所】	東京都中央区日本橋堀留町二丁目9番6号
【電話番号】	東京(03)3249-2381(代表)
【事務連絡者氏名】	取締役 赤 星 礼 子
【最寄りの連絡場所】	東京都中央区日本橋堀留町二丁目9番6号
【電話番号】	東京(03)3249-2381(代表)
【事務連絡者氏名】	取締役 赤 星 礼 子
【縦覧に供する場所】	株式会社東京証券取引所 (東京都中央区日本橋兜町 2 番 1 号)

第一部 【企業情報】

第 1 【企業の概況】

1 【主要な経営指標等の推移】

回次	第92期 中間連結会計期間	第93期 中間連結会計期間	第92期
会計期間	自 2024年 4 月 1 日 至 2024年 9 月30日	自 2025年 4 月 1 日 至 2025年 9 月30日	自 2024年 4 月 1 日 至 2025年 3 月31日
売上高 (百万円)	16,162	16,667	32,519
経常利益 (百万円)	1,505	1,570	3,052
親会社株主に帰属する 中間(当期)純利益 (百万円)	1,055	1,516	2,136
中間包括利益又は包括利益 (百万円)	900	1,968	3,135
純資産額 (百万円)	14,384	18,203	16,618
総資産額 (百万円)	26,680	30,540	29,405
1株当たり中間(当期)純利益金額 (円)	38.53	55.21	77.91
潜在株式調整後1株当たり 中間(当期)純利益金額 (円)	-	-	-
自己資本比率 (%)	53.9	59.6	56.5
営業活動によるキャッシュ・フロー (百万円)	2,005	1,020	3,701
投資活動によるキャッシュ・フロー (百万円)	372	869	520
財務活動によるキャッシュ・フロー (百万円)	1,147	1,253	2,171
現金及び現金同等物の 中間期末(期末)残高 (百万円)	2,789	3,947	3,313

(注) 1 当社は中間連結財務諸表を作成しておりますので、提出会社の主要な経営指標等の推移については記載しておりません。

2 潜在株式調整後1株当たり中間(当期)純利益金額については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。

2 【事業の内容】

当中間連結会計期間において、当社グループ(当社及び当社の関係会社)において営まれている事業の内容に重要な変更はありません。

また、主要な関係会社についても異動はありません。

第2 【事業の状況】

1 【事業等のリスク】

当中間連結会計期間において、新たに発生した事業等のリスクはありません。

また、前事業年度の有価証券報告書に記載した事業等のリスクについて、重要な変更はありません。

2 【経営者による財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】

文中の将来に関する事項は、当中間連結会計期間の末日において当社グループ（当社及び連結子会社）が判断したものであります。

(1) 財政状態及び経営成績の状況

（経営成績）

当中間連結会計期間におけるわが国経済は、雇用・所得環境の改善やインバウンド需要の拡大などを背景に緩やかな回復基調で推移しました。一方で、物価上昇や原材料価格の高止まり、為替変動、海外経済の減速懸念、地政学的リスクなどにより、依然として先行きは不透明な状況が続いております。このような環境の中で、当社グループはお客様、地域社会、関係取引先、従業員及びその家族の安全と健康を確保することを最優先に、生活必需品である砂糖や、オリゴ糖をはじめとした機能性素材等の製品を安定して消費者の皆様にお届けすることを第一義に考え、お客様のおなかの健康に貢献する「おなかにやさしい会社」として、年度計画達成に向けて全力で取り組んでまいりました結果、当中間連結会計期間の業績は以下のとおりとなりました。

砂糖事業

海外原糖市況は、ニューヨーク市場粗糖先物相場（当限、1ポンド当たり）が18.89セントで始まり、4月初旬に高値19.63セントを付けました。その後、米国の関税懸念で下落基調となり、さらには投機筋の売りが膨らんだことから6月末に4年ぶりの安値14.68セントを付けました。8月には17.05セントまで値を戻すものの、砂糖主要生産国であるブラジル中南部での生産が順調に推移しているとの観測から、一時15.10セントまで下落しました。その後買い戻しが入り、結局16.10セントで当中間連結会計期間を終了しました。

国内市中価格（日本経済新聞掲載、上白大袋1kg当たり）は、期初249円～251円で始まり、同水準のまま当中間連結会計期間を終了しました。

精糖およびその他糖類など国内販売では、家庭用製品が低調に推移したものの、業務用製品においてはインバウンドや観光需要が好調に推移し、また記録的な猛暑が追い風となり、飲料ユーザー向け等への販売も好調に推移したことから、販売数量・売上高ともに前中間連結会計期間を上回りました。

以上の結果、当期における砂糖事業全体の売上高は15,834百万円（前中間連結会計期間比3.4%増）、セグメント利益は1,973百万円（前中間連結会計期間比4.0%増）となりました。

バイオ事業

オリゴ糖部門は、美容家のI K K O氏や落語家の林家つる子氏をメインキャラクターに起用、“オリゴのおかげ＝腸活”のイメージ定着を図るため、各種広告宣伝活動に取り組んでまいりました。大容量タイプなどコアユーザー向け製品の需要が着実に高まってきている一方、一部家庭用製品及び業務用製品が低調に推移し、売上高は前中間連結会計期間を下回りました。

サイクロデキストリン部門は、一部ユーザー向けの大口受注が入るなど、売上高は前中間連結会計期間を上回りました。

ビーツ部門は、ECサイトでの販売を中心に展開しましたが、売上高は前中間連結会計期間並みに推移しました。

以上の結果、当期におけるバイオ事業全体の売上高は847百万円（前中間連結会計期間比1.0%増）、原材料コスト等の上昇に伴いセグメント利益は160百万円（前中間連結会計期間比14.2%減）となりました。

その他

その他の事業につきましては、ニューE S Rビル事務所の一部賃貸等を行い、所有不動産の活用に努めました結果、売上高は68百万円（前中間連結会計期間比0.8%増）、セグメント利益は38百万円（前中間連結会計期間比1.1%減）となりました。

以上の結果、当中間連結会計期間の売上高は16,667百万円（前中間連結会計期間比3.1%増）、営業利益は1,448百万円（前中間連結会計期間比1.9%増）、経常利益は1,570百万円（前中間連結会計期間比4.3%増）、当社が保有する投資有価証券の一部を売却したことによる特別利益605百万円を計上し、親会社株主に帰属する中間純利益は1,516百万円（前中間連結会計期間比43.7%増）となりました。

（財政状態）

資産

流動資産合計は前連結会計年度末に比べて1,074百万円増加し、10,831百万円となりました。これは主に、現金及び預金が634百万円、原材料及び貯蔵品が448百万円増加したことによるものであります。

固定資産合計は前連結会計年度末に比べて59百万円増加し、19,708百万円となりました。これは主に、機械装置及び運搬具が31百万円、長期貸付金が119百万円増加した一方で、建設仮勘定24百万円、投資有価証券71百万円が、それぞれ減少したことによるものであります。

この結果、総資産は、前連結会計年度末に比べて1,134百万円増加し、30,540百万円となりました。

負債

負債合計は前連結会計年度末に比べて450百万円減少し、12,336百万円となりました。これは主に、支払手形及び買掛金が205百万円、繰延税金負債が215百万円増加した一方で、有利子負債が844百万円減少したことによるものであります。

純資産

純資産合計は、前連結会計年度末に比べて1,584百万円増加し、18,203百万円となりました。これは主に、その他有価証券評価差額金が468百万円、利益剰余金が1,103百万円増加したことによるものであります。

(2) キャッシュ・フローの状況

当中間連結会計期間における現金及び現金同等物（以下「資金」という）は、前連結会計年度末と比べて634百万円増加し、3,947百万円となりました。

当中間連結会計期間における各キャッシュ・フローの状況とそれらの要因は次のとおりであります。

営業活動によるキャッシュ・フロー

営業活動の結果得られた資金は、1,020百万円（前中間連結会計期間は2,005百万円の収入）となりました。

これは主に、税金等調整前中間純利益2,175百万円、減価償却費289百万円、仕入債務の増減額205百万円、利息及び配当金の受取135百万円等による資金の増加があった一方で、投資有価証券売却損益605百万円、棚卸資産の増減額373百万円、法人税等の支払額748百万円等による資金の減少があったことによるものであります。

投資活動によるキャッシュ・フロー

投資活動の結果得られた資金は、869百万円（前中間連結会計期間は372百万円の資金支出）となりました。

これは主に、投資有価証券の売却による収入1,310百万円、貸付金の回収による収入415百万円等による資金の増加があった一方で、有形固定資産の取得による支出376百万円、貸付けによる支出480百万円等による資金の減少があったことによるものであります。

財務活動によるキャッシュ・フロー

財務活動の結果支出した資金は、1,253百万円（前中間連結会計期間は1,147百万円の資金支出）となりました。

これは、配当金の支払409百万円、借入金の純減少額844百万円による資金の減少があったことによるものであります。

(3) 事業上及び財務上の対処すべき課題

当中間連結会計期間において、新たに発生した事業上及び財務上の対応すべき課題はありません。

(4) 研究開発活動

当中間連結会計期間におけるグループ全体の研究開発活動の総額は、20百万円であります。

なお、当中間連結会計期間において、当社グループの研究開発活動の状況に重要な変更はありません。

3 【重要な契約等】

当中間連結会計期間において、重要な契約等の決定又は締結等はありません。

第3 【提出会社の状況】

1 【株式等の状況】

(1) 【株式の総数等】

【株式の総数】

種類	発行可能株式総数(株)
普通株式	80,000,000
計	80,000,000

【発行済株式】

種類	中間会計期間末 現在発行数(株) (2025年9月30日)	提出日現在 発行数(株) (2025年11月7日)	上場金融商品取引所 名又は登録認可金融 商品取引業協会名	内容
普通株式	35,000,000	35,000,000	東京証券取引所 (スタンダード市場)	完全議決権株式であり、権利内容に何ら限定のない当社における標準となる株式 単元株式数は100株
計	35,000,000	35,000,000		

(2) 【新株予約権等の状況】

【ストックオプション制度の内容】

該当事項はありません。

【その他の新株予約権等の状況】

該当事項はありません。

(3) 【行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等】

該当事項はありません。

(4) 【発行済株式総数、資本金等の推移】

年月日	発行済株式 総数増減数 (千株)	発行済株式 総数残高 (千株)	資本金増減額 (百万円)	資本金残高 (百万円)	資本準備金 増減額 (百万円)	資本準備金 残高 (百万円)
2025年4月1日～ 2025年9月30日		35,000		1,750		345

(5) 【大株主の状況】

2025年9月30日現在

氏名又は名称	住所	所有株式数 (千株)	発行済株式 (自己株式を 除く。)の 総数に対する 所有株式数 の割合(%)
大東製糖株式会社	千葉県千葉市美浜区新港4-4	4,060	14.75
フジ日本株式会社	東京都中央区日本橋兜町6-7	1,360	4.94
株式会社みずほ銀行	東京都千代田区大手町1丁目5-5	1,353	4.92
INTERACTIVE BROKERS LLC (常任代理人 インタラクティブ・ブロー カーズ証券株式会社)	ONE PICKWICK PLAZA GREENWICH, CONNECTI CUT 06830 USA (東京都千代田区霞が関3丁目2-5)	679	2.47
三菱UFJ信託銀行株式会社	東京都千代田区丸の内1丁目4-5	603	2.19
株式会社榎本武平商店	東京都江東区新大橋2丁目5-2	550	2.00
大東通商株式会社	東京都新宿区市谷台町6-3	500	1.82
日本マスタートラスト信託銀行株式会社 (信託口)	東京都港区赤坂1丁目8番1号 赤坂インターシティAIR	455	1.65
東京海上日動火災保険株式会社	東京都千代田区大手町2丁目6-4	340	1.24
野村信託銀行株式会社(投信口)	東京都千代田区大手町2丁目2-2	315	1.14
計		10,217	37.12

(6) 【議決権の状況】

【発行済株式】

2025年9月30日現在

区分	株式数(株)	議決権の数(個)	内容
無議決権株式			
議決権制限株式(自己株式等)			
議決権制限株式(その他)			
完全議決権株式(自己株式等)	(自己保有株式) 普通株式 7,477,400		権利内容に何ら限定のない 当社における標準となる株式
完全議決権株式(その他)	普通株式 27,501,900	275,019	同上
単元未満株式	普通株式 20,700		同上
発行済株式総数	35,000,000		
総株主の議決権		275,019	

- (注) 1 「完全議決権株式(その他)」の欄には、証券保管振替機構名義の株式が29,000株含まれております。
また「議決権の数」欄には、同機構名義の完全議決権株式に係る議決権の数290個が含まれております。
2 「単元未満株式」欄の普通株式には、当社所有の自己株式29株が含まれております。

【自己株式等】

2025年9月30日現在

所有者の氏名 又は名称	所有者の住所	自己名義 所有株式数 (株)	他人名義 所有株式数 (株)	所有株式数 の合計 (株)	発行済株式 総数に対する 所有株式数 の割合(%)
(自己保有株式) 塩水港精糖株式会社	東京都中央区日本橋 堀留町2丁目9-6	7,477,400		7,477,400	21.36
計		7,477,400		7,477,400	21.36

2 【役員の状況】

該当事項はありません。

第4 【経理の状況】

1．中間連結財務諸表の作成方法について

当社の中間連結財務諸表は、「連結財務諸表の用語、様式及び作成方法に関する規則」（昭和51年大蔵省令第28号。以下「連結財務諸表規則」という。）に基づいて作成しております。

また、当社は、金融商品取引法第24条の5第1項の表の第1号の上欄に掲げる会社に該当し、連結財務諸表規則第1編及び第3編の規定により第1種中間連結財務諸表を作成しております。

2 監査証明について

当社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、中間連結会計期間（2025年4月1日から2025年9月30日まで）に係る中間連結財務諸表について、監査法人日本橋事務所による期中レビューを受けております。

1 【中間連結財務諸表】

(1) 【中間連結貸借対照表】

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2025年3月31日)	当中間連結会計期間 (2025年9月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	3,313	3,947
受取手形及び売掛金	2,061	2,002
商品及び製品	1,382	1,308
仕掛品	291	288
原材料及び貯蔵品	1,587	2,035
その他	1,119	1,247
流動資産合計	9,756	10,831
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物	10,296	10,362
減価償却累計額	7,974	8,032
建物及び構築物（純額）	2,322	2,330
機械装置及び運搬具	12,671	12,511
減価償却累計額	10,922	10,731
機械装置及び運搬具（純額）	1,749	1,780
工具、器具及び備品	436	456
減価償却累計額	378	388
工具、器具及び備品（純額）	58	68
土地	5,185	5,185
建設仮勘定	93	69
有形固定資産合計	9,408	9,433
無形固定資産		
ソフトウェア	12	10
その他	6	6
無形固定資産合計	18	16
投資その他の資産		
投資有価証券	8,375	8,303
長期貸付金	1,520	1,639
繰延税金資産	275	276
その他	50	39
投資その他の資産合計	10,221	10,258
固定資産合計	19,649	19,708
資産合計	29,405	30,540

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2025年 3 月31日)	当中間連結会計期間 (2025年 9 月30日)
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	1,352	1,557
短期借入金	2,700	2,400
1年内返済予定の長期借入金	1,688	1,748
未払法人税等	768	677
未払消費税等	275	187
賞与引当金	63	66
その他	1,099	1,258
流動負債合計	7,947	7,895
固定負債		
長期借入金	3,860	3,256
退職給付に係る負債	108	98
繰延税金負債	656	871
その他	214	215
固定負債合計	4,839	4,441
負債合計	12,786	12,336
純資産の部		
株主資本		
資本金	1,750	1,750
資本剰余金	241	241
利益剰余金	15,656	16,759
自己株式	2,890	2,861
株主資本合計	14,756	15,890
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	1,750	2,218
繰延ヘッジ損益	2	0
退職給付に係る調整累計額	109	95
その他の包括利益累計額合計	1,862	2,313
純資産合計	16,618	18,203
負債純資産合計	29,405	30,540

(2) 【中間連結損益計算書及び中間連結包括利益計算書】

【中間連結損益計算書】

(単位：百万円)

	前中間連結会計期間 (自 2024年 4 月 1 日 至 2024年 9 月30日)	当中間連結会計期間 (自 2025年 4 月 1 日 至 2025年 9 月30日)
売上高	16,162	16,667
売上原価	13,106	13,513
売上総利益	3,056	3,154
販売費及び一般管理費	1 1,634	1 1,705
営業利益	1,422	1,448
営業外収益		
受取利息	18	20
受取配当金	86	114
持分法による投資利益	11	27
その他	18	12
営業外収益合計	135	174
営業外費用		
支払利息	43	50
支払手数料	2	1
その他	6	1
営業外費用合計	51	53
経常利益	1,505	1,570
特別利益		
投資有価証券売却益	21	605
特別利益合計	21	605
税金等調整前中間純利益	1,526	2,175
法人税、住民税及び事業税	470	657
法人税等調整額	0	1
法人税等合計	471	658
中間純利益	1,055	1,516
親会社株主に帰属する中間純利益	1,055	1,516

【中間連結包括利益計算書】

(単位：百万円)

	前中間連結会計期間 (自 2024年 4 月 1 日 至 2024年 9 月30日)	当中間連結会計期間 (自 2025年 4 月 1 日 至 2025年 9 月30日)
中間純利益	1,055	1,516
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	134	466
繰延ヘッジ損益	14	3
退職給付に係る調整額	0	0
持分法適用会社に対する持分相当額	4	10
その他の包括利益合計	154	451
中間包括利益	900	1,968
(内訳)		
親会社株主に係る中間包括利益	900	1,968

(3) 【中間連結キャッシュ・フロー計算書】

(単位：百万円)		
	前中間連結会計期間 (自 2024年 4 月 1 日 至 2024年 9 月30日)	当中間連結会計期間 (自 2025年 4 月 1 日 至 2025年 9 月30日)
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税金等調整前中間純利益	1,526	2,175
減価償却費	284	289
退職給付に係る負債の増減額（ は減少）	0	9
賞与引当金の増減額（ は減少）	3	3
受取利息及び受取配当金	105	135
支払利息	43	50
為替差損益（ は益）	1	1
持分法による投資損益（ は益）	11	27
投資有価証券売却損益（ は益）	21	605
売上債権の増減額（ は増加）	658	58
棚卸資産の増減額（ は増加）	459	373
仕入債務の増減額（ は減少）	387	205
その他	171	48
小計	2,279	1,681
利息及び配当金の受取額	105	135
利息の支払額	43	50
法人税等の支払額	336	748
法人税等の還付額	-	0
営業活動によるキャッシュ・フロー	2,005	1,020
投資活動によるキャッシュ・フロー		
有形固定資産の取得による支出	414	376
無形固定資産の取得による支出	-	0
投資有価証券の取得による支出	0	0
投資有価証券の売却による収入	82	1,310
貸付けによる支出	1	480
貸付金の回収による収入	463	415
関係会社株式の取得による支出	500	-
その他	0	2
投資活動によるキャッシュ・フロー	372	869
財務活動によるキャッシュ・フロー		
短期借入金の純増減額（ は減少）	400	300
長期借入れによる収入	700	300
長期借入金の返済による支出	1,200	844
配当金の支払額	247	409
財務活動によるキャッシュ・フロー	1,147	1,253
現金及び現金同等物に係る換算差額	1	1
現金及び現金同等物の増減額（ は減少）	484	634
現金及び現金同等物の期首残高	2,305	3,313
現金及び現金同等物の中間期末残高	1 2,789	1 3,947

【注記事項】

(継続企業の前提に関する事項)

該当事項はありません。

(中間連結貸借対照表関係)

1 偶発債務

連結会社以外の会社の金融機関等からの借入に対して、債務保証を行っております。

前連結会計年度 (2025年3月31日)		当中間連結会計期間 (2025年9月30日)	
太平洋製糖㈱	87百万円	太平洋製糖㈱	62百万円

(中間連結損益計算書関係)

1 販売費及び一般管理費のうち主要な費目及び金額は次のとおりであります。

	前中間連結会計期間 (自 2024年4月1日 至 2024年9月30日)	当中間連結会計期間 (自 2025年4月1日 至 2025年9月30日)
製品保管輸送費	498百万円	504百万円
販売促進奨励金	5百万円	5百万円
給料手当賞与金	221百万円	243百万円
賞与引当金繰入額	49百万円	48百万円
退職給付費用	11百万円	9百万円

(中間連結キャッシュ・フロー計算書関係)

1 現金及び現金同等物の中間期末残高と中間連結貸借対照表に掲記されている科目の金額との関係は次のとおりであります。

	前中間連結会計期間 (自 2024年4月1日 至 2024年9月30日)	当中間連結会計期間 (自 2025年4月1日 至 2025年9月30日)
現金及び預金	2,789百万円	3,947百万円
現金及び現金同等物	2,789百万円	3,947百万円

(株主資本等関係)

前中間連結会計期間(自 2024年4月1日 至 2024年9月30日)

配当金支払額

決議	株式の種類	配当金の総額 (百万円)	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日	配当の原資
2024年6月27日 定時株主総会	普通株式	246	9.00	2024年3月31日	2024年6月28日	利益剰余金

当中間連結会計期間(自 2025年4月1日 至 2025年9月30日)

配当金支払額

決議	株式の種類	配当金の総額 (百万円)	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日	配当の原資
2025年6月27日 定時株主総会	普通株式	411	15.00	2025年3月31日	2025年6月30日	利益剰余金

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

前中間連結会計期間（自 2024年4月1日 至 2024年9月30日）

1 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報並びに収益の分解情報

(単位：百万円)

	報告セグメント				調整額 (注1)	中間連結 損益計算書 計上額 (注2)
	砂糖事業	バイオ事業	その他	計		
売上高						
顧客との契約から生じる収益	15,303	799	-	16,103	-	16,103
その他の収益	-	-	59	59	-	59
外部顧客への売上高	15,303	799	59	16,162	-	16,162
セグメント間の内部売上高又は振替高	14	39	8	62	62	-
計	15,318	838	67	16,225	62	16,162
セグメント利益	1,897	186	39	2,123	701	1,422

- (注) 1 セグメント利益の調整額は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費及び研究開発費であります。
- 2 セグメント利益は、中間連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。
- 3 その他の収益は、「リース取引に関する会計基準」(企業会計基準第13号)に基づく賃貸収入等であります。

当中間連結会計期間（自 2025年4月1日 至 2025年9月30日）

1 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報並びに収益の分解情報

(単位：百万円)

	報告セグメント				調整額 (注1)	中間連結 損益計算書 計上額 (注2)
	砂糖事業	バイオ事業	その他	計		
売上高						
顧客との契約から生じる収益	15,799	807	-	16,607	-	16,607
その他の収益	-	-	60	60	-	60
外部顧客への売上高	15,799	807	60	16,667	-	16,667
セグメント間の内部売上高又は振替高	35	39	8	82	82	-
計	15,834	847	68	16,750	82	16,667
セグメント利益	1,973	160	38	2,172	723	1,448

- (注) 1 セグメント利益の調整額は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費及び研究開発費であります。
- 2 セグメント利益は、中間連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。
- 3 その他の収益は、「リース取引に関する会計基準」(企業会計基準第13号)に基づく賃貸収入等であります。

(収益認識関係)

顧客との契約から生じる収益を分解した情報は、「注記事項(セグメント情報等)」に記載のとおりであります。

(1 株当たり情報)

1 株当たり中間純利益金額及び算定上の基礎は、以下のとおりであります。

項目	前中間連結会計期間 (自 2024年 4 月 1 日 至 2024年 9 月30日)	当中間連結会計期間 (自 2025年 4 月 1 日 至 2025年 9 月30日)
1 株当たり中間純利益金額	38円53銭	55円21銭
(算定上の基礎)		
親会社株主に帰属する 中間純利益金額(百万円)	1,055	1,516
普通株主に帰属しない金額(百万円)	-	-
普通株式に係る親会社株主に帰属する 中間純利益金額(百万円)	1,055	1,516
普通株式の期中平均株式数(株)	27,394,915	27,467,336

(注) 潜在株式調整後 1 株当たり中間純利益金額については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。

(重要な後発事象)

該当事項はありません。

2 【その他】

該当事項はありません。

第二部 【提出会社の保証会社等の情報】

該当事項はありません。

独立監査人の中間連結財務諸表に対する期中レビュー報告書

2025年11月 7 日

塩水港精糖株式会社
取締役会 御中

監査法人日本橋事務所

東京都中央区

指定社員 業務執行社員	公認会計士	千	保	有	之
指定社員 業務執行社員	公認会計士	新	藤	弘	一

監査人の結論

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、「経理の状況」に掲げられている塩水港精糖株式会社の2025年4月1日から2026年3月31日までの連結会計年度の中間連結会計期間（2025年4月1日から2025年9月30日まで）に係る中間連結財務諸表、すなわち、中間連結貸借対照表、中間連結損益計算書、中間連結包括利益計算書、中間連結キャッシュ・フロー計算書及び注記について期中レビューを行った。

当監査法人が実施した期中レビューにおいて、上記の中間連結財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して、塩水港精糖株式会社及び連結子会社の2025年9月30日現在の財政状態並びに同日をもって終了する中間連結会計期間の経営成績及びキャッシュ・フローの状況を適正に表示していないと信じさせる事項が全ての重要な点において認められなかった。

監査人の結論の根拠

当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる期中レビューの基準に準拠して期中レビューを行った。期中レビューの基準における当監査法人の責任は、「中間連結財務諸表の期中レビューにおける監査人の責任」に記載されている。当監査法人は、我が国における職業倫理に関する規定（社会的影響度の高い事業体の財務諸表監査に適用される規定を含む。）に従って、会社及び連結子会社から独立しており、また、監査人としてのその他の倫理上の責任を果たしている。当監査法人は、結論の表明の基礎となる証拠を入手したと判断している。

中間連結財務諸表に対する経営者並びに監査役及び監査役会の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して中間連結財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない中間連結財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

中間連結財務諸表を作成するに当たり、経営者は、継続企業の前提に基づき中間連結財務諸表を作成することが適切であるかどうかを評価し、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に基づいて継続企業に関する事項を開示する必要がある場合には当該事項を開示する責任がある。

監査役及び監査役会の責任は、財務報告プロセスの整備及び運用における取締役の職務の執行を監視することにある。

中間連結財務諸表の期中レビューにおける監査人の責任

監査人の責任は、監査人が実施した期中レビューに基づいて、期中レビュー報告書において独立の立場から中間連結財務諸表に対する結論を表明することにある。

監査人は、我が国において一般に公正妥当と認められる期中レビューの基準に従って、期中レビューの過程を通じて、職業的専門家としての判断を行い、職業的懐疑心を保持して以下を実施する。

- ・ 主として経営者、財務及び会計に関する事項に責任を有する者等に対する質問、分析的手続その他の期中レビュー手続を実施する。期中レビュー手続は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して実施される年度の財務諸表の監査に比べて限定された手続である。
- ・ 継続企業の前提に関する事項について、重要な疑義を生じさせるような事象又は状況に関して重要な不確実性が認められると判断した場合には、入手した証拠に基づき、中間連結財務諸表において、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して、適正に表示されていないと信じさせる事項が認められないかどうか結論付

ける。また、継続企業の前提に関する重要な不確実性が認められる場合は、期中レビュー報告書において中間連結財務諸表の注記事項に注意を喚起すること、又は重要な不確実性に関する中間連結財務諸表の注記事項が適切でない場合は、中間連結財務諸表に対して限定付結論又は否定的結論を表明することが求められている。監査人の結論は、期中レビュー報告書日までに入手した証拠に基づいているが、将来の事象や状況により、企業は継続企業として存続できなくなる可能性がある。

- ・ 中間連結財務諸表の表示及び注記事項が、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠していないと信じさせる事項が認められないかどうかとともに、関連する注記事項を含めた中間連結財務諸表の表示、構成及び内容、並びに中間連結財務諸表が基礎となる取引や会計事象を適正に表示していないと信じさせる事項が認められないかどうかを評価する。
- ・ 中間連結財務諸表に対する結論表明の基礎となる、会社及び連結子会社の財務情報に関する証拠を入手する。監査人は、中間連結財務諸表の期中レビューに関する指揮、監督及び査閲に関して責任がある。監査人は、単独で監査人の結論に対して責任を負う。

監査人は、監査役及び監査役会に対して、計画した期中レビューの範囲とその実施時期、期中レビュー上の重要な発見事項について報告を行う。

監査人は、監査役及び監査役会に対して、独立性についての我が国における職業倫理に関する規定を遵守したこと、並びに監査人の独立性に影響を与えると合理的に考えられる事項、及び阻害要因を除去するための対応策を講じている場合又は阻害要因を許容可能な水準にまで軽減するためのセーフガードを適用している場合はその内容について報告を行う。

利害関係

会社及び連結子会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以 上

(注) 1. 上記の期中レビュー報告書の原本は当社(半期報告書提出会社)が別途保管しております。

2. XBRLデータは期中レビューの対象には含まれていません。